

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470201308
法人名	有限会社 三聖
事業所名	グループホーム 桜園三聖
所在地 (電話番号)	四日市市高浜町5番7号 (電話) 059-330-6665
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 17 日(水)

【情報提供票より】 (H20年8月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.5人	

(2)建物概要

建物構造	軽重鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,550 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,600円		

(4)利用者の概要(8 月 30 日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 88.6 歳	最低 76 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	越山クリニック うの森クリニック 江尻歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所内部は、県指定のバリアフリー仕様となっており、床にはフロアマットが敷かれ、滑りにくい作りで高齢者には優しい住まいとなっている。同じフロアでは扉で仕切られてデイサービスが併設されており、いつでも扉を開けて交流をすることが出来る。また、隣接する整体整骨院の協力により1週間に1回、無料マッサージを受けることが出来利用者に大変喜ばれている。事業所は開設時より地域との交流を深め地域に溶け込んだ施設を目指すことを基本理念の一節に掲げ地域住民との交流を深めている。管理者、職員は基本理念にある利用者の意思を尊重して自由を束縛しないゆとりのある介護を目指して取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の取り組み、家族等への報告、チームでつくる介護計画の項目は、それぞれ全体ミーティングで検討し改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と職員が意見を出し合い、管理者がまとめて作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月に1回の頻度で開催している。イベントの紹介、事業所の運営状況等を地域の代表、行政担当、事業所の関係者により熱心に討議されケアサービスの向上につなげている。出来れば現状の3ヶ月に1回の開催を更なるレベルアップを目指し、2ヶ月に1回の開催に取り組まれることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談、苦情担当者が明記されており、苦情受付箱も設置している。家族会も年に1回開催しており意見等も聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開催される、納涼祭りやふれあい祭りに参加している。また、事業所で開催する夏祭り、餅つき大会に地域住民をはじめボランティアに参加を呼びかけ多数参加してもらってる。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、地域との交流を念頭に置き利用者の意思を尊重し、自由を束縛しないことを原則としたゆとりある介護を提供することを基本理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念を入れ、日々理念を意識した介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる、納涼祭、ふれあい祭り等に参加したり、事業所で行う夏祭り、餅つき大会に地域のボランティアや住民に参加を呼びかけ交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を毎月行う全体ミーティングで話し合い、サービスの向上に向け改善を図っている。自己評価は、管理者と職員が話し合い作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表、家族会代表、事業所関係者及び行政担当者により開催し、サービスの状況、地域との交流会等について話し合わせ3ヶ月に1回開催されている。	○	現在運営推進会議は、3ヶ月に1回開催され積極的にサービスの向上に取り組んでいるが、更なるレベルアップを目指し、2ヶ月に1回の開催に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の問題や疑問が生じた場合、市の担当者に相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	さくら通信を月に1回発行し、イベントの報告や利用者の写真も添えて送っている。金銭の収支報告書も領収書と一緒に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、相談、苦情受付担当者の窓口も明記され、相談、苦情箱も設置されている。家族会も年に1回開かれ意見等を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職等で変わる場合は、利用者のダメージを防ぐよう関係者で話し合っ対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は計画を立て、他の施設と合同で年に4回実施している。また、事業所内で資格取得を目指して勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他施設との交流勉強会に2ヶ月に1回参加している。また、他施設との合同研修会も年に4回行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が見学に来て他の利用者と一緒にお茶を飲んだりして徐々に馴染むようになっている。最近では馴染みのあるデイサービスからの利用者の入居が多くなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話を出来るだけ多くするように心がけ、信頼関係を深めると共に、日常の作業と一緒にしながら知恵を借りたりして共に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、会話しながら把握に努めている。意思の疎通の困難な場合は、家族などに聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月行われる全体ミーティングでの意見や情報をまとめ、家族や本人との話し合いをもとに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、6ヶ月ごとに実施している。利用者に急変が生じ対応が難しくなった場合は、職員、家族、本人と相談の上現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や、家族の希望によりお墓参りや一時帰宅、美容院への送迎等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診が月に2回行われ、それ以外にも電話により連携をとって、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や、終末期に関しての方針が決められており、家族にも説明をしている。重度化した場合改めて、かかりつけ医より家族に説明して、今後の方針などを話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を人生の大先輩と敬いプライバシーを損ねるような対応はしていない。また、職員に対する個人情報の取り扱いについての研修会も行っており、関係書類の取り扱いにも十分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まってはいるが、一人ひとりの希望を大切にして自由を束縛しないように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、管理栄養士が作ったのを基準にしている。月に1回は利用者の希望を聞き、利用者と一緒に作り、賑やかで楽しい食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には、毎日でも入浴が出来るようにしている。入浴が好きな利用者には長い時間ゆったりと楽しんで入浴が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	水栽培で育てている観葉植物の水を入れ替えたり、洗濯物たたみ、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者は、散歩や買い物、イベントに出かけている。散歩等出来ない利用者は、中庭に設けられたテーブルでお茶を飲みながら、屋外の空気を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	屋内は、自由に行動できるようにしており、玄関の鍵もかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時を、想定して避難訓練を年に2回実施している。	○	利用者の居室が1階と2階に分かれており、夜間の災害発生の場合対応が難しい。利用者の安全、安心を得るためにも夜間時の災害を想定した訓練をされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、基本的に管理栄養士が献立を立てており、食事の摂取量は記録している。水分は午前中、午後のおやつ時に飲むように奨めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、不快な音もなく、季節の花や、利用者の作品、イベント時の写真等が飾られ居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族の希望でテレビや家具等が持ち込まれ気持ちよく過ごせる場としている。		